夕刊
# 磐城新聞
三月二十六日發行
發行所 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊

…通常自動車常識…

## 自動車の乘心地がよくなる迄
## 新紀元を劃する一九三四年型
### ニーアクションホイルに就て

株式會社福島モーター商會平出張所 主任 佐藤勝美

（上）

馬のない馬車と言はれました時代から今日に至る迄自動車の後部座席乘心地のあまりよくなかつたのは自動車愛用者のよく知つてゐる事でありませう

然し後部座席に乘る乘客が感しまする不快な動搖は座敷そのものに缺陷があるのではなく、又後部スプリングの爲でもなく、實際は自動車の前輪の取付け方法の惡い爲であると言ふ事を御知りの人は少ないのであります。だから今迄の自動車は前スプリングと後スプリングの調和が取れてゐないため前端と後端は常に別個の運動をするのでありまして、恰かも調子外れの二個の樂器が一度に奏でられる所謂音波と同じで常に設計技師の申します週期性の問題となるのであります

然らばこの不調和を未然に防ぎ改良しますには前スプリングを柔くすればよいわけで、これに依つて後スプリングとの調和保ち得る樣になるので御座います

いささか專門語に走りますが舊式自動車の前スプリングを見る時、スプリングが前車軸（フロントアクスル）についてゐるのが御分りでせう

それで車輪が衝撃を受けますと直ぐ車輪を持ち上げて他の一方の車輪も必然的に傾く事に御氣付で御座いませう

その他に色々御座いますが專門的になりますので省略致しましてこれがため非常に難しく今迄の自動車製造業者が隨分研究されて來た問題で御座います

この改良につきましてゼネラルセーターズ各技師は特にスプリングの週期性と調和に就き苦心研究とプロビンググランドに於けるあらゆる種類の實地試驗の結果確固たる自信の下に率先始ゆて世に出たものでありまして一九三四年度のゼネラルモータースの箱型乘用車には悉く採用された所謂劃期的の大裝置でニーアクションと申しまして此の裝置を一口に申せば人間の膝關節と同じ作用をなさしめ爲に左右前輪が個々別々に作用する裝置で此結果過去の自動車では到底味ふ事の出來ない爽快な乘心地を滿喫する事が出來る樣になりました

## 磐新歌壇
小山田滋選

『路の赤芽』　野本多霞夫

○ふつくらと路の赤芽に雪のせて庭はひつそり春たちにけり

○卓の上のほのぼの咲ける黄水仙春立づ色のもりあがりたる

○いらだてる心おさへて歩む街のショウウインドは春を粧はふ

○いさかひし後の心のしづまらず春の粧ひのウインドに立つ

○春の土手にしむまゝに鉢植ゑて心すがしく飯をかつこむ

## 磐泉吟社第三回作品

望海　高木磐海

渺漫滄海與悠々　短艇浮沈動欲流
岸壁怒濤高百尺　水生煙靄碎崖頭

賀婚姻

共慶謳歌滿座賓　良媒綺席酒千巡
花顔偶坐同心結　好遇深閨琴瑟親

其ノ二

壽觴歡不極　佳遇待蕃孫
玉杯鴛鴦樂　閨中協和婚

滿洲　佐波古爾峯

滿洲天地見龍旒　登極天壇郊祭秋
嘗盡辛酸茲復辟　改元康德鳳城悠

## 創作 異性
（四）　木津茂太郎

いつ子は靜也の方を見てわらつた、千代子も少しわらつた

「はい――」

靜也は次の札を讀もうとして一寸いつ子の顏を見た其の顏には年下の者に對するやさしみの表情が溢れてゐた。が存外、此の新來者がやり手なのをいつ子は感じてゐた、いつ子は向ひ側の千代子の札を見た

勝負は初まつてゐた、今度は源平に分れて相爭ふ勝負であつた。源氏の方には千代子と町子が男の中に加はつてゐた。平氏にはいつ子と常子と音次郎と近所の者であつた。英子と助次郎と、松男と云ふ職人は長火鉢の傍で見てゐた

『風さそふ奈良の都の夕ぐれは……みそぎぞ夏のしるしなりけり……』

靜也は落著いた聲音で讀みあげた

『はい』

音次郎が取つた

間も無く勝負が付いた。時刻は十時になつてゐた、歸り仕度をして皆は立ち上つた。音次郎と松男は此處の職人だから殘つたが、後の者はぞろ／＼助次郎や英子に挨拶をして下駄をはいた

靜也は別れて家に歸る途中、ほのかに無意識にいつ子の顏を思ひ浮べてゐた月もない空には、銀砂子のやうな星だつた。夜風は冷たかつた。……

三

二三日は過ぎた

靜也は晝過ぎの二時頃ふらりと外出した。彼はすつかり歌留多會の事などは忘れ果てゝゐた

笹野の黑い門の前を何氣なく靜也は通らうとした

見ると黑い門の前に思ひ掛けなく、いつ子が立つてゐた。靜也ははつとした樣にいつ子の黑い眼を見た。いつ子は襟卷を掛けてゐなかつた、だが美しい上品な羽織を着てゐた。彼女は政夫が出て來るのを待つて其處に立つてゐたのであつた

いつ子は靜也の顏を見てにつ……と笑つた

靜也はさつとM公園の方へ歩いて行つた

彼は今のいつ子の微笑を解するに苦しんだ

## 春淺き日
K生

一

遠山の雪消えぬれど吹く風も、いまだ冷たき春の朝

たなびく雲の晴れそめて麗に映ゆる陽の光り

さき幸あれと祈りつゝ、生くるこの身のうれしさに

若き心の血は燃えぬ、いざや打ち連れ野に出でん

二

淸き流れのきはみなく、野邊には草も萠え立ちぬ

木の芽ふく山鳥鳴けば、うれしや春の日も近し

戀しき春の日も暮れて、野の家一つ灯りゐし

去りにしこの日永久に、かへらざるなりし身は悲し

於

酒屋の公休日を
早春の勿來の關

空もうらゝにすみ渡り躍る心もどよめきてゆくや我等の一日を乘れる車もかるがると勿來の關に至りけりその昔八幡太郎義家が越せにしときに詠れたる歌の心もしのばれん弓かけの松鞍かけの松年古れどかはらぬ靑き色こめて吹く潮風に古を語るに似たり音すなり目下に見ゆる海原のうすき霞のたなびきて鏡の如しといへるなり松靑々と打ちつゞく磯に碎くる波のさまげにも樂しき今日の日を

〔社會の今日〕

3月27日　△原田甲斐伊達安藝を殺す（寛文一一）△佐賀の亂平定（明治七）△七年度實行豫算大藏省議決定（昭和七）△國際聯盟脱退（同八）

○

脂肪落ちて燃ゆる明りや初にしん　靑夕

母に添ひてはじめて菫わが摘みし樂土舊りたる岡崎の里　與謝野晶子

## 講談 浪人長屋
（46）　日岐武志作　月草道子畫

草むら

『なかなか、歸つて來ないなア彼奴ら、どこへ行つたんだらう』

『表にも裏にも、錠がおろしてないところから考へると、さう遠くへ行つた筈はないよ』

龍雲齋――玄内の家に近い草むらの中で、玄内と準八の歸りをあれからずつと待ち伏せしてゐた蛇遣お蝶と權吉

『錠がおろしてないんだもの、こつそりしのびこんで、中にかくれてる方がいゝかも知れないなア』

『だけど、小僧を二人使つてゐるつてことだから、うつかり忍び込めないよ』

『いゝさ、見つかつたら俺ア、この樫の棒で叩きのめしてやるよ』

權吉は、お蝶の傍で樫の棒を握りなほして元氣のよい聲でいつた

『そんなことしたつて、なんにもならないさ。それにしても家の中で、かたりとも物音がしないところをみると、小僧も居ないのかも知れない』

『さうだね、一人でさみしくなつたもんで、何處かへ泊りに行つたんだぜ、きつと生意氣小僧だつて噂だが!』

『それはさうと、大分夜が更けたやうだね』

お蝶は空を見上げた。權吉も仰いだ。星一つない眞ッ黑な空

『降るかも知れない』

ぼうぼうと生ひ茂つた草むらの中である。互の顏もはつきり分らない程、暗い眞夜中である

時々、思ひ出したやうに不氣味な聲でふくろうが啼く

お蝶も權吉も、長い間かうした旅の苦勞を知つてゐるから、さみしさもおそろしさも全く感じない樣子だ

權吉眠くないかえ、眠かつたら、あたしの方へ寄りかゝつて少し眠つたらどうだね』

『眠くなんかないさ、眠くなつてたまるもんか。仇を討つツてのに』

『ホヽヽ、大分元氣だね。黑吉と白子は、ぐつすり寢込んでゐるらしく少しも動かないよ』

『のんきな奴らだナ、俺たちのこゝろも知らないで』

『ほんにね、だけど、あたしたちのうちで、一番役に立つのは黑吉と白子だよ。お前が樫の棒かしの棒ツていばるけど、何せ先きはやくざ浪人でも武家は武家だもの。あたしや覺悟してゐるよ、お前は大丈夫だらうね』

『うん大丈夫。俺ア數へきれない程、たんと恩を受けてゐるのだもの、この場になつて覺悟をゆるめるやうなことするもんか。俺アお侍の子ぢやなくとも恩位知つてらア、この樫の棒だつて見榮やしやれで持つてるんぢやないぜ姐さん』かしの棒の値打ちを下て貰つては困る、と權吉は少し不服さうである

『ホホホ、たのもしいね』

お蝶は輕く笑つたが、急に眞面目に

『ほんに、お前には苦勞をかけたね、年若なお前が大事な親を捨てゝ僅かな恩をきて、あたしとこんな當のない旅をつづけて、行末どうなるだらうと思ふと、今度といふ今度は立派に仇を討つて、早くお前を一人前の男になれるやうにしてやりたいといつも思つてゐるのだよ』

お蝶はしみじみといつた

お蝶は、自分自身の不幸を忍ばれたのかふと聲をくもらせた、權吉は急に何か思ひ出したのか鼻をすゝりあげた

『權吉、思ひ出したんだらう、國の父ッあんや、おッ母さんのことを……』

權吉は、胸に込上げてくるものを、ぐッと嚙みころしてまぎらはすやうに

『そんなこと思ひ出すもんか、俺ア思ひ出しやしねえつ』

『可哀さうな、權吉ッ』

お蝶は權吉の頸に兩腕を卷きつけてきいた

○○○齋沼町長出福　今廿六日福島市で開催された縣下町長會支會長會議の爲

○○○○大峰利吉氏寄附　平町長橋町大峰利吉氏はこの程學校備品として第二校に二億萬圓消火器一個を寄贈した

○○○○各代表出福一束。　小檜山磐中校長は明廿七日福島市教育會館に開かれる縣下聯合青年團長會に。縣教育會郡部會長會我直治氏は同上總會に。津田第二小學校長は縣下女子聯合青年團評議員會に何れも出席する

## 第一職員擔任決定

平第一校の九年度學級擔任は今二十六日の職員會で左の如く決定した

（尋一）一組力丸莊之助、二組石山クニ、三組平塚ムメ（二）一組樋口シヅ二組吉成朝重、三組水竹仁（三）一組黑木リヤウ、二組松崎吉太郎、三組玉手球子、四組中村忠榮（四）一組齋藤ユキヲ、二組橫田淵藏、三組松本正治（五）一組井上佳都美、二組仲村三郞、三組根本榮雄（六）一組鈴木康、二組佐藤粂介、三組上川恒牛、四組古川秀夫（高一）一組松本政美、二組坂内伊良（二）一組瓜田壽、二組大和田祐之（專科）圖書手工鈴木嘉一（唱歌）武藤貞輔（商業）丹野哲夫

## 平商學費概算

各學校の書籍代概算に就いては既報の如くであるが平商校が調査による學費概算左の如くである（錢單位）

（入學時の概算）校友會入會費一、〇〇　書籍一二、〇九　筆墨筆記帳等一、〇〇　算盤二、〇〇　帽子二、〇〇　武道具（柔）大四、〇〇　小三、五〇　（劍）一、一五〇（二月分割拂）

（毎月）授業料（町内）三、七〇（町外）四、二〇　校友會費五〇　商友會費二〇　修學旅行積立金五〇

（臨時）被服費夏三、五〇　冬七、〇〇　靴普通靴五、〇〇　軍靴二、五〇　背囊二、五〇

二十七日

日出 五、三六　月出後 二、一九
日沒 五、五八　月沒前 三、二七
滿潮 前四、二〇 後三、一〇
干潮 前九、五五 後九、五〇

舊二月十三日　火曜 丁酉 友引 破 觜宿　新三月二十七日

諸判定總需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部

▲一白の人　短慮を愼しみ急追を戒しむれば次第に吉運▲二黑の人　旅中の川止にあひたる如く急ぐも進み難し▲三碧の人　不時の難儀に備ふるは平日の勉勵に如かず▲四綠の人　小事を蔑視すれば大局を不利に誘導すべし▲五黄の人　氣苦勞のみ起りて安心を得ず親交肝要とす▲六白の人　共同事業に破たんを生ぜんとす我意を愼しめ▲七赤の人　百事勞して功なし企業開店不可病厄に注意▲八白の人　賴む力を失ひて處置に窮する事ある不安日▲九紫の人　意氣くわつ達にして萬事調子好く伸び行く吉日


# 御通學には
魂の這入つた……
## フタバの自轉車で

責任保證付。總クローム
東京製新車　廿五圓ヨリ
一年保ツ中古車　十圓前後

フタバ式リヤカー發賣元
## フタバ商會
平。新川町。月見橋際
（見習生貳名採用）

## 松ヶ岡公園櫻花廣告燈規定

一、櫻花廣告燈は滿開の時期を見計ひ約十日間點火するものとす

二、櫻花廣告燈は左の二種に定め申込氏名、屋號、商品名等を記載點火するものとす

三、當組は特に左記破格料金にて奉仕致します

（イ）岐阜形提灯壹燈ニ付　金壹圓五拾錢
（ロ）六角燈雪洞壹燈ニ付　金貳圓貳拾錢

四、廣告圖案は主催者に御一任を願ひます

五、不可抗力の爲め破損せる場合は止を得ざるものとす

昭和九年三月
主催 平消防組
後援 平町役場
（申込〆切ハ四月五日迄トス）

## 成田山護摩大修行團体募集

一、四月三日午前七時廿五分平驛發　四月四日午前十時頃成田解散

一、會費　金八圓五拾錢也

但　片道汽車賃車中辨當及茶菓子代、成田宿泊料及茶代諸祝儀、大護摩修行諸費、箱札料、一等坊入料及席上諸祝儀、宗吾間電車賃ハ御自辨ノコト

但　成田、宗吾靈堂大護摩修行費、其他解散迄ノ諸費一切ヲ含ム

◎三月三十一日迄會費は持參の上御申込被下度候

昭和九年三月吉日
成田山大新榮講
講元 井上貞治郎
平町五丁目 電話五一八番

## マツダランプの需要

日に增大しつゝある事は御後援の賜と感銘致す次第に存じ候。然るに最近マツダランプ製品と稱し一個金拾五錢位にて行商しつゝある者あるやの御通知に接し候爲め調査致し候處意外にも右はマツダランプの加工再製品たる不良電球なる事を發見致し、各位に於かせられても多大の御迷惑を痛感せられたる事不尠こと存じ驚嘆致したる處に御座候

依つて右安球に對し充分の御警戒被下さと共に爾後マツダランプは必らず指定特約店より直接御買求め下さる樣懇願し奉り候

マツダランプ常磐地方特約店

平町 磐城工業商會　湯本町 岩瀬屋藥店
仝 大谷時計店　小名濱町 白石藥店
仝 大勝ラヂヲ店　仝 寶屋藥店
仝 木村電機商會　植田町 磐城屋
仝 古山ラヂヲ店　江名町 北村時計店
仝 日東商會　浪江町 松本商店
湯本町 白石藥店　原ノ町 柴田電氣商會

## 月曜論壇
### 大工町踏切改修

時代錯誤的交通難所とも謂ふべき平町大工町の踏切改修が最近鈴木代議士の紹介斡旋により衆議院請願委員會で滿場一致決議され本會議の通過も殆ど確實と觀らるるに至つた事は地方永年の懸案が玆に愈々實現の曙光に接したものとして良とに慶賀措く能はざる處である、同所の交通狀態を顧ると往年常磐線開通の際人口僅か一萬餘の當時に於ても當町南北を連絡するには宇田町より柳町へ、白銀町より柳町へ、白銀町より番匠町への三線を有し、之は鐵道開通の爲に廢止され南北の交通は現在の大工町より仲間町方面に通ずる一路線に集中するに至つた、而も該路線は啻に當町南北の交通路線たるに止まらず隣村平窪、好間、神谷各村との連繫に必要なるのみならず遠く田村郡小野新町より郡山市に通ずる要路で且つ鐵道以北には縣立磐中、同高女、裁判所營林署等の設置あり、隨つて來往頗る頻繁なるに加へ鐵道開通當時二三線であつたのが更に磐越東線の開通に因て列車運轉回數頓に增加を來し現在踏切の地點を橫斷する鐵道路線は十二線となつた結果列車の往復頻繁で殊に同所は平驛構內の一部なるが爲列車の換線及機關車の輻湊甚しく閉鎖時間の多い事は之を客臘九日午前五時半より午後六時半に至る延十三時間の實績に徴するに前後百五十七回、此の所要時間四百三分(六時間四十三分)に上り此所を通過する人二、四八九　自轉車一、四三三　手車一一二　リヤカー一一九　牛車一一　自動車九　人力車六　乳母車五　オートバイ五　馬車三　貨物自動車一(同上調査實績)は分秒を焦躁し乍ら尙ほ無意義の時間を空費せねばならなかつたもので今後之れが改修の實現を見るに至れば民衆の被る利福蓋し測り知るべからさるものがある　その日の一日も速かならん事を祈念して措かぬ

# 交通難所大工町踏切
## 愈々近く改修されん
### 請願委員會で滿場一致可決

本平驛東部大工町及仲間町地內鐵道踏切改修に關しては多年屢陳情と請願を重ねたが未だ依然として之が解決を見るに至らず交通の危險と不便とは逐年益其甚しきを加ふるものあるので町では屢に同所の交通量に關し詳細なる資料を添へ地元選出鈴木代議士紹介の下に秋田衆議院議長に陳情する處あつたが去る二十三日請願委員會に於て滿場一致可決され本會議の通過も確實と見らるる旨同代議士から通知あつた

### 高久村御降誕記念事業

高久村では皇太子御降誕記念事業として同村小學校庭の土盛り及堤防新設をなす事になり消防隊約六十名が昨廿五日より出動着手した

# 僅か九ヶ月間に二百餘萬圓增收
### 當分續く炭鑛景氣

常磐炭鑛界は屢報の如く昨年以來軍需インフレ景氣に乘つて急激に採炭高を增大し昨年六月以降今春二月に亘る九ヶ月間に於て左の如く百四十五萬三千八百九十一噸を採炭し前年の同期に比較して實に十六萬三千二百三十五噸の增産を得た、この間にれいて市場相場は塊炭噸當り一圓五十錢前後の値上りとなつてゐるので大少二十の常磐地方各炭鑛會社はこの九ヶ月間において二百二十一萬餘圓の增收となり會社の基礎及經營狀態が著しく向上し增配による炭鑛株の値上り等十年振りの好況を滿喫して居るので、この際聯合會で增送を中止してもこの景氣は依然として持續する見込をつけ經營の合理化をはかり深部の炭層を開發し極力生産費を切り下げる方針の下に今期への陣營を整へつゝあるから採炭量は今後も當分增加の傾向をたどることであらう、常磐炭鑛界の採炭比較(單位千噸)

| | 八年度 | 七年度 |
|---|---|---|
| 六月 | 一三七 | 一三五 |
| 七月 | 一三六 | 一一七 |
| 八月 | 一四六 | 一一七 |
| 九月 | 一五三 | 一四一 |
| 十月 | 一八四 | 一三三 |
| 十一月 | 一九七 | 一五五 |
| 十二月 | 一四八 | 一七三 |
| 一月 | 一七六 | 一五六 |
| 二月 | 一七六 | 一六四 |
| 計 | 一、四五四 | 一、二九一 |

# 約一倍の志望で平商は最受驗難
### けふ願書を締切

平商の入學願書受付は今二十六日、二十四日付投函の分を加へて百九十五名に達した、之で在平三中等校の願書受付を了つたわけであるが前年と比較すると

| | 八年 | 九年 | 增△減 |
|---|---|---|---|
| 磐中 | 三三八 | 三三七 | △一 |
| 磐女 | 三七三 | 三八六 | 三 |
| 平商 | 一八〇 | 一九五 | 一五 |

で超過數磐中一〇七名(四割二分八厘)磐女一八六名(九割三分)平商は八十五名(七割七分三厘)だが約百十名と云ふ定員を實際の許可人員は百名と見て九十五名(九割五分)で受驗最難關と見られる

# 晴やかに笑む
## —平三小學校優等生—

**第一** (三ノ一) 小野晃平　酒井健　中澤幹太郎　清水俊政　柴田春雄　片寄武夫　馬目欣之助　吉田敬治　磯上剛 (三ノ二) 鈴木滿男　大谷繁雄　小園井邦男　藤田文朗　水野敏夫　横山榮一　山島恒　小谷平四郞　鈴木建助 (三ノ三) 岡田存平　牧野好夫　鍋田三省　橋本壽　唯野信　渡邊通　高橋喜政　渡邊義國　村田賢德 (三ノ四) 松本英一　石川榮一　大塚寬　關原進　豐田聰明　武田邦彥　大平泰明　酒井平　薄葉忠久 (四ノ一) 銀木善彌　三井眞一　櫻井博　遠藤好一　木下藤三　高階仁　飯沼賢一　飛田常重　齊藤修三　坂內亨　齊藤齊 (四ノ二) 松本眞平　正木秀夫　山崎常三郞　渡邊弘道　戸石雄二　新妻幸男　吉江一行　若松壽彥　佐藤賢治　鈴木甚雄 (四ノ三) 龜山正邦　飯島登司　小松崎富夫　會澤三郞　門馬政衛　小谷由男　新妻唯男　半谷英二　諸橋英二　永野節

**第二** (三ノ一) 千葉怜子　大和田キヨ子　渡邊ながこ　黑木智子　三井敬子　勝見米子　石和悅　蛭田悅子 (三ノ二) 横山言子　秋山貞子　柴田離苦子　矢田部富子　鈴木函子　梅森道子　早川和枝　高崎喜代子 (三ノ三) 大嶺悅子　桑原貞子　長瀨多美　遠藤睦子　百澤英子　高橋正子　高橋京子　佐川行 (三ノ四) 佐藤ミチ　石川サヱ子　友部宮子　白土アイ子　小川トヨ子　篠山達子　東條正子　綠川比奈子 (四ノ一) 梅津吉子　木村アイ子　關原芳枝　五十嵐シノブ　阿部みさほ　金子トミ子　今井久子　大樂恒子　國分アキ (四ノ二) 馬目靜　野口チエ子　木田秀子　關內滿壽子　三浦榮子　大島キミ子　菅本幹子　松本ミサ　高田アイ子 (四ノ三) 原ツネ　酒井良子　田仲マスヨ　坂本勝子　江尻キヨ子　阿部英子　佐々木アイ子　大谷經子　椎名時子 (四ノ四) 櫻庭美代　村山佳子　淺野敬子　藤井滿惠　田代喜美　鯨岡久　中村照　吉田貞子　高澤ひろ子

**第三** (三ノ一) 橋本克己　松崎幸子　木村康　阿部愛子　野本輝子　今田美代子　根本八重子　川崎忠治　松崎佐二郎 (三ノ二) 田中富美子　青木藤枝　菊地堯雄　志賀篤　加美山サト　野澤芳男　新井靜江　佐藤哲夫　松崎喜江 (三ノ三) 竹村弘　澄川欽司　飯澤キヨ子　橋本孫四郞　白土義男　芳賀ミサ子　五十嵐實枝子　橋咲　橋本文子 (四) 寺門武彥　吉田眞一　小松伸太　藤田信藏　西岡亨　井上明　牛澤芳男　諸橋金彌　猪狩侯夫　鈴木高光　鈴木剛二 (四) 永島佳子　野澤登記枝　圓谷文子　林清子　影山サト子　高萩芳子　鈴木良子　鈴木文子　山崎恒代　志賀綾子　龜田千鶴 (五) 松崎惣兵衛　今田實　瀧口勝久　竹村彌實　金成桂一　橋久　中川仁　田中賢治　志賀啓佑　多田井鷹雄 (五) 白土貞子　張文子　川崎初子　白土ノブ子　玉木勝子　林淑子　渡邊ヨデ　新妻ハル　平澤ウタ　小菅正子 (六) 諸橋富彌　平野井珪造　荒四郞　植村力夫　佐藤進　鈴木勇次郞　山崎茂次　根本一 (六) 井上和子　丹野千鶴　高田秋子　鈴木ミツ子　高萩秀　澄川ケイ子　岡田幸子　鈴木省子　遠藤チイ　武子トシ　青木俊子　下鳥キヨ (各校以下次號)

# 磐炭青年は雄叫ぶ
### 昨日淺野會館の盛況

磐炭青年會では昨廿五日午後一時から淺野記念館に於て辯論大會を催したが參會約二百名あり盛況裡に同四時散會した
△青年よ團結せよ—(綴支部)佐藤忠一、△吾等の覺悟—(綴)金成治、△青年に訴ふ—(峰根)水野守三郎、△日印會商を語る—(高坂)鈴木正、△日本の現狀を顧みて—(平太郎)佐藤德雄、△青年の使命—(綴)松本幸一　△吾人の覺悟—(平太郎)志賀英男△正義日本の使命—(峰根)森下寅一△傳統的精神に返れ—(綴)前崎高義△成功とは何ぞや—(町田)小枝操△勞働の本領—(高坂)下賀喜一△危期日本の展望—(本部)高野金作

# 受驗は朗らかに
### 親の注意が大切
## 某消息通は語る

明日は愈々子供の壽命を縮める試驗の當日だ、出來るだけ朗らかに切りぬける樣に御努力が願ひたい。長い間の勉强に子供は勞れて大抵輕度の神經衰弱になつて居る、熱心な親になると一緒にかゝつてしまつてお互に怒つたり泣いたりする。これではならない子供を臺なしにしてしまう『出來るだけ朗らかに』之が大いに必要だ。受驗前といつても明日に控へた今日の注意は明日の受驗に何一つ手落ちのない樣に用具、受驗票等一々整頓して入浴し安らかに眠りにつくやうに、少しのぼせ氣の有る兒には散髮をさせるがよい

それから試驗場にのぞんでの注意だが前にいつた『出來るだけ朗らかに』と云ふことを第一に

一、遲刻するな。便所をすましておけ
二、自分の席を早く見つけて席につく
三、受ける注意を聞き漏すな
四、用具の整頓
五、大膽にしてしかも細心に
六、問題をよく讀んで、その問の意味を正しく考へる
七、頭の中でよく整理してから書く
八、易しいものから先へ、むづかしいものは後まはし
九、他人のものは決して見るな、まはりに氣を散すな
十、文字は叮嚀に綺麗に書け
十一、時間一ぱいに、手落ちのない樣に
十二、番號や名前は落さぬ樣、問題を讀む前に書く
十三、間違つた答の百よりも正しい答の一つがよい
十四、出來たらもう一度見よ

それから試驗の後で、間違つたからと云つて決して子供を叱つてはならない、よく出來たからといつて決して安心してはならない、心を靜めて發表を待つべきだ何處までも『受驗は朗らかに』愛兒を臺なしにせぬやう注意を願ひたい

# 母の不注意
### 添乳の嬰兒窒死

好間村北好間與井一郞內妻遠山シホ(三二)は一昨廿日午前三時頃添寢中長男一雄(二)の鼻孔に乳房を壓しつけ窒死させた

# 函館に集る同情
### 各方部の醵金協議

酸鼻の極に遭した函館大災害に對する各方部の見舞左の如し
平町—此程の町會で取敢えず千圓を贈る事になつたので今廿六日午後一時から各團體主事者が町會議事堂に參集募集協議をなした
磐炭—同鑛青年會では昨廿五日午後一時から淺野記念館に各方部幹部會を開き協議の結果一人宛五錢、合計二百圓の見込み
古河—役員は五十錢以上勞働者は日給一圓以上のものは三十錢以上一圓以下のものは十五錢以上合計約二百圓を醵出一兩日中に發送
入山—目下同礦自治會で計劃を進めて居る
平消防組。。。組員一同より三十圓を醵金今廿六日同市勝田消防組頭宛送つた
平善華會托鉢。。。平善華會では函館罹災者に贈る義捐金募集の爲明二十七日町內を托鉢すると

# 草野村の野鼠退治
### 農會青年團員が活動

草野村では最近野鼠が蕃殖する爲田畑の被害甚大で農家ではこれが驅除方法に腐心してゐるが同村農會では來る廿八日各部落青年出動全村耕地六百町步の野鼠退治をなす

# 紙代の殘りを函館へ
### 平第二校女兒の純情

平第二校高一ノ二組小野文子さんは外五十名を代表して去る二十二日朝校長を訪れ左の手紙をそへ金二圓二錢を福島民報社を通じて大變災の函館市民へ贈る事を依賴した
私達は今朝の新聞で函館の大火を見て驚きました私達の級の者が相談して紙代の殘りのお金で餘り少しですが燒出されて困つてゐる人達に上げて下さい

### 德永博士講演

早大教授理工學博士德永重康氏は常磐地方地質調査の途次昨二十五日午後六時から內郷村磐炭職員倶樂部に於て同社員の爲講演會を催し盛況であつた

# 三名共體刑に
### 湯本の軍雞賭博判決

既報—湯本町の大鬪雞賭博の左記三名の公判は今二十六日午前十時から平區で中島判事係り野本檢事關與開廷、求刑通り各頭書の判決を言渡された
懲役五月罰金二十圓(賭博開張)湯本町三函居住磐崎村大字西郷生土木請負業箱崎義一(四七)懲役二月罰金二十圓(賭博開張幇助)茨城縣久慈郡諸富野村雞肉商大高八百吉(五六)同(同)上遠野村原前農鈴木太平(四〇)

# 理髮徒弟受驗準備

本縣今年度理髮結髮業者試驗は來る五月十五、六、七の三日間郡山公會堂で開かれるので平署管內受驗者約六十名は去る十五日より平看護婦會に於て大森(傳染病學)星(解剖學)賓川(細菌學)笠原平署部長(法規)の諸氏指導の下に來月末日迄受驗中であると

# 洋服屋荒し
### 三百圓分を盜む

一昨廿四日深更平町佐川洋服店頭からセル、コート地及洋服一着(合計價格三百圓)を盜まれた旨屆出により平署で嚴探中

### 鮫川堰工事鍬入式擧行

所要材料及人夫の供給を加藤組に二萬八千三百五十圓で請負はする事に決定した鮫川水利復舊工事は昨廿五日午後一時から關係者立會鍬入れ式をなした

# ロップ放れの炭車矢の勢ひで逆行
### 福炭の三人死傷原因調査

一昨廿四日午前五時頃赤井村字高萩福島炭鑛坑內に於て逆行した炭車に觸れ後山夫五十嵐福一(三三)は卽死、坑夫鈴木喜太郞(三八)同西田直吉(三二)の兩名重傷を負つた取調べの結果前記時刻同鑛地內カーブで炭車が轉覆し直に復舊して疾走し出した處今度は炭車を結ぶチエーンとワイヤロープの接續部であるコースと稱する部分がゆるみロープが自然に外れた爲七輛連結の炭車は猛烈な勢で逆行した爲でロープの接續部が外れたと言ふ事は全國鑛界において稀に見る事故で殊に同ロープは去る十六日新品と取代へたばかりなので炭鑛側でも全く意外として居り又平署でも事故が事故だけに責任者に對しては嚴重な取調を行つてゐる

# 金牌獲得か
### 名譽の無事故表彰
### 平機關庫再た

平機關庫では來月十七日を以て無事故二年六ヶ月間に達し再び名譽ある金牌が授與されるので庫內到所に『最後の五分間』『努力』等のポスターを貼り付けて全員の注意を喚起して居るが右金牌の獲得は東鐵管內最初のものであると

### 本多公遺德表彰講演會

本多忠籌公遺德表彰講演會は既報の如く今廿六日午後一時より泉村小學校で開催したが參會約二百名盛會であつた、尙同會場には菊多實業校吉田正愛氏その他蒐集の忠籌公遺墨その他十數點中心學者北條玄養が本多公の招聘に依り村々を巡化しその功により三人扶持を授けられた文獻並に心學善敎舍設立の機運と公の抱負等を玄養が京都明倫舍に言ひ送つた書狀などが目を引いた

利安寺橋渡初式。。。上平窪村横山利安寺境內澤村勘兵勝爲公の墓所に通ずる鐵筋コンクリート製太鼓橋は既報の如く竣功今廿六日渡初式を擧行した

賭博。　昨廿五日午後三時頃赤井村大字平弘地內松林中で四名が車座になり十丹と稱する賭博開張中平署員に踏込まれ同村高萩字山の神坑夫阿部良七(四八)同工藤淸三郞(四三)を逮捕外二名は逸早く逃走したので目下嚴探中だが從來十數回行つたらしいと

行倒れ。　東京市深川區黑江町東大工町二〇生れ高橋ハナ(四五)は廿三日午後一時頃平町長橋町九番地內で腎臟病を起し步行困難の爲町役場で行路病舍に收容手當

艦。內務局視察。。。。　內務省社會局勞働部局艦平亮氏は今二十六日來郡磐城、入山、古河の三大炭鑛を視察した

高久校卒業式。。。。　實業公民學校青年訓練所を併せた卒業式は廿四日午前九時から同村小學校に開いた

石城財務協議。。。。　來月廿一二の兩日平稅務署で開く

中堅農民評議員會。。。。　來る二十九日午後一時より平町團體事務所樓上に於て春季總會理想鄉會其他の件に就き評議員會を開くと

酌婦七百圓を踏む。。。。　平町南町料理業あさひや事引地善次郞方抱酌婦宮城縣刈田郡白川村生れ我妻イチ(二〇)は昨廿五日午後九時頃前借七百圓を踏倒し逃走したので目下百方手配嚴探中

# 電話讓タシ
姓名在社

### 德永博士說明

湯本復湯の委員外有志三十餘名は昨廿五日德永博士の來湯を機として午後二時から役場に於て同町地下湯脈に關する講演をなした、尙地下採掘問題で至急答申を迫られて居る平町では菅沼町長外五町議議出張同博士の說明を求め專門家により調査する事が良策なる旨說示されたので近く基本的調査の上具体的反對理由を答申する事になつたと